

第1回豊川市総合保健センター（仮称）基本計画等策定委員会会議録

日 時	令和2年8月17日 午後1時30分から午後2時50分まで
場 所	豊川市医師会館中会議室
出席委員	柳澤委員（会長）、白垣委員（副会長）、小澤委員、鳥山委員、平野委員、辻村委員、伊藤委員、石川委員、豊田委員、前田委員、飛安委員※、桑野委員、岩村委員※、飛田委員、宇井委員、小久保委員 ※途中退席（16名） 【オブザーバー】 愛知県保健医局健康医務部医療計画課 竹島担当課長、坂田課長補佐
欠席委員	鈴木委員（1名）
事務局	子ども健康部保健センター 【委託業者】アイテック株式会社

発言要旨等会議内容は、次のとおりです。

1 市長あいさつ

市長マニフェスト基本理念の二つ目である「子育て豊川応援団 日本一子育てしやすいまち」の中で、総合保健センター及び併設施設として妊産婦ケアセンターをつくること が明記されている。マニフェストの中でも一番重要で、先行している計画でもある。専門知識も必要であるが、任期中に実施設計まで進めたいと考えている。

今後も関係機関としっかりとタッグを組んで豊川市が安全安心で健康で過ごせるまち となるよう努めていく。

2 委員等紹介

事務局から各委員及びオブザーバーの紹介があった。

3 報告事項

事務局から、本策定委員会について、現在の新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、当面の間は傍聴を認めないことと報告があり承認された。

4 会長及び副会長の選任について

委員より立候補・推薦等なく、事務局の案として、本件は豊川市の健康づくりの拠点に ついて検討するものであり、公衆衛生に関し、豊富な経験と高い見識を持つ愛知県立大学 看護学部長の柳澤委員を提案することが示され、承認となった。

副会長については、会長からの指名により、心身障害学に精通し、豊川市子ども・子育

て会議会長を務めている岡崎女子大学の白垣委員が承認された。

5 豊川市総合保健センター（仮称）のあり方について

事務局 今後のスケジュール及び総合保健センター（仮称）のあり方の検討について説明。

委員 保健センターの現状の課題で、人口構造の変化に伴う利用者数の減少は、少子化が理由ということか。

事務局 「母子保健」が減少しているのは少子化が影響していると考えられる。「成人保健・健康づくり」は若干増加しており、少子化の影響をあまり受けていない印象。

委員 今後少子高齢化が進むことから、高齢者の利用を含めて考えていく必要があるということを理解した。

委員 歯科医療センターでは、休日夜間の急病以外にも障害者の診療も行っている。場所としては現状、休日夜間診療と同じ場所で行っており、そのような機能が入っていることも承知しておいてほしい。

事務局 歯科の障害を対象とするものか。

委員 全身障害の方が対象で、車いすや体の動きが制限されている等、一般の歯科医院で受け入れが難しい方、一般の椅子には座りにくい方を対象にしている。

事務局 特別な設備が必要か。

委員 専用のいす等、休日夜間と別のものが必要。豊橋でも同様の取り組みを行っているため、参考にはなると思う。

委員 休日夜間急病診療所の他事例見取り図における感染対応エリアについて、特徴的であり、注目したとの発言があったが、休日夜間急病診療所受診者は大半が感染症の患者である。感染症対策については、全エリアを対象にした方が良い。

委員 子どもの場合、発熱が大部分。現場では休日夜間急病患者の7～8割は発熱者。新型コロナウイルス感染症の影響により、今後感染症対策に非常に厳しくなることが予想され、感染対策をしっかりと考える必要がある。

議長 何か具体的に感染症対策について提案はあるか。一般的な風邪と新型コロナウイルス感染症のようなものは違うと思うが。

委員 コロナ禍においては、発熱者は建物の中に入れないことが基本。駐車場で待っていただく等、基本的には患者さんが施設に立ち入らない動線とする方向となっている。診察の順番が来た患者さんに呼び出しベル等で直接入っていただく、診察室を複数用意する等、患者さん同士を接触させないような建物が必要。特に豊川市は車で移動する方が多いので、感染症患者用の駐車場を少し広めに取り、待機場所を確保することも必要。

- 委員 換気は周知されているが、診察室が個室になっていることが多い印象。そこで医療従事者の感染が起こる可能性があるので、その部分で方法がないかと考える。
- 議長 場合によっては構造や駐車場まで含めた人の流れを考えなければならないということである。
- 委員 3センター（健康福祉センター、音羽福祉保健センター、御津福祉保健センター）の利用が少ないとのことで、廃止を含めた見直しが必要との話があった。中心地に立派な施設を作るといのは前向きで素晴らしい話ではあるが、高齢者は施設が遠くなると利用しづらい。高齢者の地域活動の場として、近くにあればこそ魅力もある。そのような側面からの検討もお願いしたい。
- 事務局 現施設ごとの利用状況は、健康福祉センターであれば、健康センターとしての利用は少ない一方、福祉センターの利用は多い。御津福祉保健センターも、保健センターの利用は少ないが、高齢者生きがいセンターの利用は多いことから、健康づくりや高齢者の方々に向けた利用は今でも多いと考えている。今後の活用については、最新の利用状況を含めて検討する必要がある。
- 議長 比較的、高齢者の方の利用が多いということか。
- 事務局 そういったことが言えると考えている。
- 議長 委員の方から高齢者の方はできるだけ近くの方が安心できるといった話があったが、子育てという面から3センターの利用についてはいかがお考えか。
- 委員 子育て世代は車の利用がとても多い。中学校区に一つ程度親子の遊び場のようなもの（ベビーカーでも行ける場所）もあるが、実際にはすぐ近くでも車を利用するケースが多い。気温・気候による要因が大きいので、移動距離はあまり気にしていない様子。ただし、地域に根差した場は子育てには大事な場所。世代間交流等ができると良いと考える。
- 議長 3センターについては、ハード面の老朽化もあり、存続できるかどうかという話があるが、何らかの形でそれに代替するような機能が残っていくような可能性については検討していく必要がある。総合保健センターそのものの話ではないが、すべて集約して良いかどうかは市民の意見を聴きながら検討する必要がある。
- 委員 児童発達支援の関連から検討していただきたいこととして、今、幼児教育・保育、学校教育の現場において、発達障害が疑われるようなお子さんがすごく増えてきている。発達障害者支援法等によると、脳機能の障害と定義付けられているが、実際には遺伝も家庭環境も要因であることが、最近小児神経学会で言われ始めている。特に愛着障害、第四の発達障害ということが言われている。そういった点でいうと、学校現場、幼稚園、保育園で気になるお子さんがいても、家庭が動かなければ医療機関や専門機関にかからずに、そのまま見過ごさ

れるケースが非常に多い。せつかく多職種の先生方、特に医師会の先生方も関わってくださるということでもあるので、ソフト面の連携の仕方、特に医教連携ということも最近叫ばれているので、学校からセンターに相談した場合に、ワンストップの相談機能などを検討する。家庭にどの程度介入できるかはわからないが、その辺りは皆さんの知恵も拝借しながら一緒に進めていきたい。

また、入管法の改正により、今後外国人児童の増加が予想されている。実際特別支援教育の枠組みの中でも外国人児童ということが謳われるようになった。豊川市は1990年の入管法改正以来、ブラジル人、ペルー人が非常に多い地域であり、学校現場で不適應を起こしている、高校には進学したが中退、場合によっては犯罪につながるという報告もある。一つの機能として外国人児童への対応、通訳や専門家の配置ということも含めて検討してほしい。

委員 高齢者や子どもの考え方はそのとおりでと思う。ただ、費用対効果といったことも含めて検討する必要があると考えている。ここの施設でやらなければならないのか、サービスは担保した上で、別の場所に機能を持たせるか等、施設の有効活用・ファシリティの考え方も含めて、総合保健センターの建設と一緒に検討できればと思っている。

また、今回のあり方の資料にはないが、保健所との連携の仕方についても、総合保健センターを建設する上で一緒に検討したい。どのように連携を行うかは未定であり、今回の説明に含んでいないが、機能面でのリンクや他施設の併設・隣接事例を含め、今後は豊川市、愛知県との協議を踏まえながら次回以降については資料に載せ、皆さんと検討したい。

委員 子育ての現場にいるため、母親からの声を聞くことが多いが、妊娠中、出産、産後に、自分や子どもの体調不良時、それぞれ個別に多くの場所に行かなければならない。現在は実家に頼れない方が増えており、ちょっとしたサポートが受けられなくて困っている方がとても多い。豊川市内にも一時預かり等はあるが、事前予約が必要である。飛び込みで、子どもの診察の間等、兄弟・姉妹の面倒を見てもらえる等のサポートがあればありがたい。

議長 今出ている意見に対する追加の意見でも構わないが、何かあるか。薬剤師会はないか。

委員 今のところなし。

議長 先ほど県との連携との話があったが、今の構想を聞く中で、県の立場から今の時点で考えるもの等あるか。

オブザーバー 今の段階では構想が決まっているわけではなく、今日の豊川市の説明と皆さんの意見を聞きながら検討していきたいと思っている。

委員 委員から意見があったが、実家に頼れないという状況がある中、保健センターが場所のみ提供してくれれば、多少の費用でボランティア的に子どもを見

るといような試みも選択肢と考える。必要な時に30分、1時間でも保健センターで子どもを見てもらえるということであれば、出産も気が楽になるし、子育てもしやすくなると思う。そのようなことも検討してほしい。

委員 市長があいさつしたとおり、妊産婦ケアセンター（名称は変更する可能性あり）はマニフェストの一つであり、日本一子育てしやすいまちという意味合いも込めて、子育て世代、妊産婦、産前産後のケアは総合保健センターにおいては重要な役割だと考えている。産後ケアは豊川市の現在の事業でも利用者が増えており、総合保健センターの建設前（令和4年度～）に相談体制を考えていきたいと保健センターでは考えている。総合保健センター建設の際にはハード面でも充実させていきたい。

議長 本日は、様々な意見が出ている。休日夜間急病診療所に関し、どのような体制で患者を受け入れるのか、どこまでの検査機能を持たせ、病院や診療所との役割分担をどうするか、地域医療への貢献の仕方等について検討が必要。

子育てしやすいまちという大きなコンセプトの一つにも様々な意見が出ており、実家を頼らずに子育てをしている母親の一時的な困りごとへの対応、発達障害児、外国人児童等のキーワードが出ていた。また、ワンストップという、ここに来れば相談ができ、対応が難しいことは次の場所に繋いでもらえるという体制が必要との意見もあった。

市民全体に対して総合保健センターが持つ機能と、一部の非常にニーズの高い、いわばハイリスクの方々に持つ機能がある様子であり、どこまで保健センターが引き受け、どこを他の場所（病院等）へ繋いでいくのかという検討も必要であることが見えてきた。

その他、ここまで子育てについては意見が出たが、妊婦自身への発言はあまりないが、意見はあるか。今の特定ニーズ（ハイリスクの方）をフォローするようなシステムがあるが、かなりのところをカバーできていると思って良いか。主に生まれた後、母親、子どもの子育てをどうしていくかが発言の中心だったように感じる。

委員 （特段の意見無し）

議長 子育てに焦点が当たるとはいえ、高齢化の観点から高齢者も大事との発言もあったが、子育てを核としながらも、成人の健康増進や健診等生活習慣予防、高齢者が高齢になっても介護保険に頼らずに生き生きとできるだけ長く健康にといった健康増進についても、並行しての検討、関連付けての検討が必要かもしれない。

今回初めてこういった構想をご覧になったため、持ち帰って検討したい部分もあると思う。子育ての面、高齢者の面等、仲間内で話をしたいとの意向もあるかと思うが、どこかの時点で意見を取りまとめて保健センター等に連絡

する形が良いのか、次回の委員会に持ち寄る形が良いのか。

事務局 次回の10月の委員会前に関係者にヒアリングを行う場があるため、そのような場で意見をいただければと考えている。

議長 ヒアリングがあることを念頭に、少し内部で検討していただく部分は進め、ご意見をいただく形で良いか。

事務局 問題ない。

議長 最終案ができ上がり、具体化されて初めて意見が出始めることがあるので、それぞれに考え、一番良い形で総合保健センターができていくよう忌憚のない意見を伝えてほしい。

6 その他

委員 このような会議・計画にでることが初めてであり、質問がある。NPO法人で代表をしているため、理事会やボランティアのスタッフと話す機会があることから、どこまで話をして良いかが分からない。いずれ市民アンケート等でオープンになっていくと思うが、市民に声を聞くことは可能か。

事務局 本日の会議について、名簿、会議録については内容を精査した上で、掲載できるものは豊川市のホームページ等で市民の皆様に周知を図っていきたいと思っている。今日の資料に基づいて検討を重ねていただくと大変ありがたい。

議長 ホームページに掲載されるものについては仲間内でシェアすることは構わないということによいか。

事務局 問題ない。

7 その他

事務局 次回の豊川市総合保健センター（仮称）基本計画等策定委員会の開催を10月に予定しており、詳細は改めて連絡する旨の連絡あり。

以上